

Yes, I can.

氏名 : 石垣 葵

学校名 : 仙台城南高校

担当教科 : 理科(物理)

実践教科 : 探究

時間数 : 9 時間

対象学年 : 2 年生

人数 : 20 名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

世界には、様々な人たちが、様々な文化の中で、様々な生活をしていることを知る。

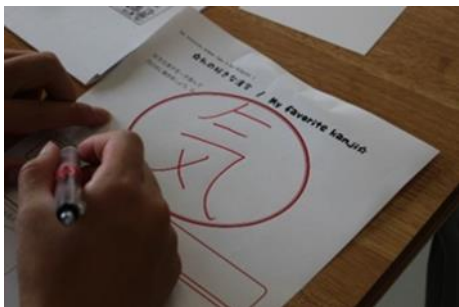
フィリピンを題材に、世界に目を向け、様々な諸問題について、他人事ではなく自分事として考え、行動する意識を養う。

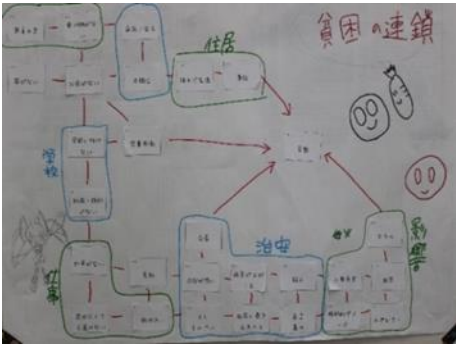
世界の諸問題に対して、自分の『Yes, I can.』を見つけることで、積極的に関わる姿勢を養うと同時に、自分にもできることがあるという自信をつける。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	海外で起きていることに対して関心を持ち、自分の事として主体的にとらえ、考えることができる。
	(イ) 思考・判断・表現	問題を的確にとらえ、効果的な行動を考えることができる。
	(ウ) 技能	自分の考えをわかりやすくまとめ、発表することができる。
	(エ) 知識・理解	海外で起きていることについて、正確な理解をしている。世界と自分とのつながりを理解している。
【3】 単元設定の 理由	2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて SDGs が掲げられているように、世界には解決すべき現実が多くある。 しかし、私たちは普段不自由のない生活を当たり前を送っており、そのことに対して疑問を持つこともあまりないように感じる。生徒には、もっと世界の現状を知り、自分達の「当たり前」をもう一度見直し、生き方や進路を見つめるきっかけを作ってほしいと思う。また学習を通して、地球に住む一人の人間として様々な諸問題に関心を持ち、主体的に考える精神や、自分のことだけではなく他者の事も考える他者貢献の精神を育ててほしいと思っている。 学習指導要領総則の「総合的な学習の時間」では、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動や自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動を通じて、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすることをねらいとしている。 よって今回、教師のフィリピンでの体験より感じた答えのない問いを生徒にぶつけ、そこから課題を見つけ、仲間と協力して考察し、自分にできること (Yes, I can.) を考えさせたいと	

	思い、単元を設定した。学習を通して広い視野を持って周りで起きている出来事に興味を持ち、自分事として考える大切さに気付かせ、自分にもできることはあるという自信をつけさせたい。 『知らなかった』では済まされない事が沢山あるということや、地球市民の一人として、今（現代）ここ（日本）にいる自分（高校生）が世界に与える影響、世界から受ける影響を学習し、主体的に世界の課題に目を向ける態度を養っていきたいと思っている。 生徒は本校探究科2年生の20名である。ほとんどが、大学や専門学校への進学を考えている生徒である。普段からの信頼関係もできており、勉強も部活もお互い切磋琢磨しながら取り組んでいる生徒たちである。 授業はグループワークを基本とした。他者と意見を交換しながら互いに協力することの大切さを認識させ、また、発表の機会を多く設けることで、自分の意見を論理的にまとめ、相手に正確に伝える技術を学ばせたい。写真を多く用いたり、現地のものに触れさせたりするなど、多角的に考えることができるように工夫して授業を展開した。
--	---

【4】展開計画（全9時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	『0. フィリピンってどんなところ？』 今の生徒のフィリピンに対する知識、イメージを確認する。 フィリピンの生徒に日本の事を紹介することで、改めて日本人としての誇りと日本の良さを認識する。	●フィリピンについての事前学習。 フィリピンについて持っているイメージ、日本とフィリピンとの関わりについて知っていることを挙げる。 （授業後、考えにどのような変化があったかを比較する。） ●フィリピンの学生に向けての手紙。『好きな漢字』 好きな漢字とその意味、その漢字が好きな理由の紹介、フィリピンの生徒に向けて簡単なメッセージを書く。  『好きな漢字とその理由』 （後に、フィリピンの生徒にも好きな言葉をタガログ語で書いてもらい、交流をする）	・はがき ・好きな漢字ワークシート
		●自分あてのはがきを書く。 教師がフィリピンに持参し、ポストに投函するもの。 国際郵便の書き方、切手の値段、到着日数の違いなどを検討する。	

2	『1. フィリピンってこんなところ！』 教師が見てきたフィリピンを生徒に紹介し、フィリピンに対して興味を持つ。 フィリピンの負の現状から世界で起きていることに対する問題意識を持つ。 貧困などの重いテーマも含まれるが、行ってみたいと思えるようなポジティブな情報も織り交ぜ、光も闇も愛らしさもある、色鮮やかなフィリピンを知る。	●フィリピンで書いてもらった『好きな言葉 by タガログ語』を読む。観点、書き方を見比べ、異なる価値観に触れる。また、共通点を見つける。 ●はがきの到着を確認する。到着日時、切手の値段、輸送手段等を確認する。 ●『フィリピンってこんなところ。〇×クイズ』 フィリピンのことをクイズ形式で知る。 貧困などの、話題だけではなく、きれいな景色や面白い話題にも触れる。またそれらを日本と比較し、相違点だけでなく、共通点も沢山あることを確認する。  『フィリピンの様子を写真で見る生徒たち』	・写真 ・はがき
3		●『ちがいのちがい』 世界の多様性、あっても良いちがいを認め合う大切さを学ぶ。 あっても良いと思う理由、あってはいけないと思う理由を話し合う。	
4	『2. 私たちの知らない世界 ～フィリピン貧困編～』 フィリピンの貧困に苦しむ人達の現状について学び、問題点どうしの繋がりを見つけ、私達との繋がりを考える。	●新聞記事や教師の手記からフィリピンの問題点を読み取る。(本研修に同行した河北新報の記者によるフィリピンの特集記事を使用) 学校に行かず、麻薬や事件事故と隣り合わせの危険な路上で仕事をしながら生活する子供達の状況と、教師がフィリピンで感じたことを共有する。次の時間に繋がるように、見える問題点だけではなく、見えない問題点（道徳・精神的な問題）にも触れる。 ●貧困の輪（フィリピン編） フィリピンの問題点をカードにして問題同士の関連性を見つける。 貧困の負の連鎖を作り、一度貧困に陥ると、悪循環になることを作業を通して学ぶ。  『生徒が作成した貧困の連鎖』	・写真 ・新聞記事 ・貧困カード

	教師が感じたことや認定 NPO 法人アイキヤンの取り組みを紹介し、自分にできることを考える。 友人と相互評価しながら、行動する意識を高める。	●それぞれの問題の原因を掘り下げる。 原因を考え、関連のある問題に繋げる。さらに、原因の原因を考えていく。 末端には、無知や無関心を含む私達との繋がりがあ ることを見つける。 ●貧困の輪を作ってみた感想を発表する。	
5 本時		●前の授業で作成した貧困の輪を確認する。 ●アイキヤンの取り組み、教師が感じた『Yes, I can.』を紹介する。 ●私たちに出来ることを考える。 グループごとに『すぐできること、がんばればできること、大人になったらできること』の三つに分ける。 ●グループごとに考えたできることと、各自の『Yes, I can.』を発表する。 ●良いと思った『Yes, I can.』に、『いいね！シール』をはる。 ●授業後『Yes, I can.』が実行できたら教師に報告し、『ONE SMILE シール』をもらう。	
6	『3. 私たちの知らない世界 ～フェアトレード編～』 フェアトレードについて学び、 メリット・デメリットを知る。 買い物を通して自分たちと世界との繋がりを知る。	●<u>買い物するときに気にすることランキング</u>を作る。 ●バナナを例に挙げ、買い物と生産者との繋がりを知る。 『バナナフローチャート』 ●フェアトレードの定義や背景、フェアトレードが必要な理由を学ぶ。 ●SPNP の取り組みを紹介し、フェアトレードの利点、問題点を考える。 ●パヤタスのお母さんたちの内面の変化にも触れる。 ●SPNP に提案してみたいフェアトレード商品を考える。 ●教師の『Yes, I can.』を少しずつ紹介する。 ●買い物するときに気にすることランキングを作る。	・写真 ・SPNP の商品 ・バナナフローチャート

		『買い物するときに気にすることランキング』 始めに作ったランキングと比較する。	
7	高校生目線で、作ってみたい商品や売れそうな商品を考えてみることで、フェアトレードに関わる人たちの気持ちに触れる。	●フェアトレード商品を考え、実際に作ってみる。作る過程で、商品を作っている人たちの想いを考え、学校に通うこと、働くことなどについて話し合う。	
8	『4. 私たちの知らない世界 ～豊かなフィリピン編～』 フィリピンの豊かさ、日本の豊かさを考え、それぞれの良さに気付く。	●豊かさとは何か、を考察する。 ●教師がフィリピンで豊かだと感じたことを、写真を見ながら紹介する。 ●日本の豊かだと思うところをグループで話し合い、挙げる。 ●フィリピンと日本で、豊かさをグループ分けする。(KJ法) 『物資』『人』『精神』『お金』『自然』など。 ●自分にとって最も大切にしたい豊かさとは何かを考え、理由とともに発表する。	・写真 ・ふせん
9	『5. Yes, I can.』 実行可能なレベルの国際協力を考える。	●自分の『Yes, I can』考え、発表する。なぜそれを選んだのか、そうすることによって、どのような結果が生じると予想するのか、を含めて発表する。(個人) ●SDGsの紹介をする。 ●この段階でのフィリピンについて持っているイメージ、日本とフィリピンとの関わり、興味を持ったこと、疑問に思ったことを挙げる。考えたことや感じたことを発表し、意見を交換する。 0時限目で書いたイメージを再確認し、イメージとの相違点、一致点を確認する。	・SDGs ロゴマーク

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	●前の授業で作成した貧困の輪を確認する。		・パワーポイント(写真) ・いいね！シール
展開 (20分)	●支援を受けて行動している人たちの取り組みを紹介する。 認定 NPO 法人アイキャンの支援を受けて Kalyecafe で働く若者や子供の家で生活する子供達の様子、ユニカセレストランの様子を写真で見せ、活動について説明する。	難しい事ではなく、誰にでもできそうだと思うことを取り上げる。 大人だからできることも取り入れ、その後の話し合い参考にする。	
まとめ (15分)	●教師の『Yes, I can.』を紹介する。(『子供達と一緒に遊ぶ』『KalyeCafe のメニューを考える』『ボランティアに参加する』『服を集めて寄付する』『生徒に国際問題について伝える』) ゲストティーチャーとして、一緒に同行した先生からの『Yes, I can.』を紹介してもらう。 ●私たちに出来ることを考える。 グループごとに『すぐできること、がんばればできること、大人になったらできること』の三つに分ける。 ●自分の『Yes, I can.』を考える。 ●グループごとに話し合った『できること』と、各自の『Yes, I can.』を発表する。 ●良いと思った『Yes, I can.』に、『いいね！シール』をはる。 授業後『Yes, I can.』が実行できたら教師に報告し、『ONE SMILE シール』をもらうことを伝える。	私たちに出来ることは、「効果の大きさ」よりも、「身近にできる」ことを優先させる。 『いいね！シール』を貼るという意識から、他人の意見をしっかり見て考えることを促す。 『ONE SMILE シール』を渡すことで実行する意識、報告する意識を持たせる。	・ ONESMILE シール

【授業実践の様子】（本時での写真を添付し、キャプションをつけて下さい）



『写真を見ながら学習する生徒』



『発表の説明を聞く生徒たち』



『自分にできることを話し合う生徒たち』



『自分にできることを話し合う生徒たち』



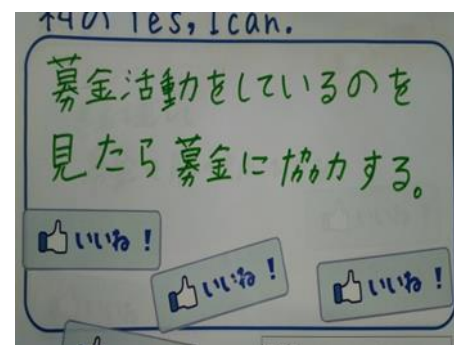
『Yes, I can. を発表する生徒』



『生徒の Yes, I can. 』



『いいね！シールを貼った Yes, I can. 』



『いいね！シールを貼った Yes, I can. 』

【6】本時の振り返り

＜授業内容＞

フィリピンの貧困やストリートチルドレンなどの現状を取り上げた前の時間の内容を受けて、現地で支援する人たちと支援を受けて活動する人たちの紹介と、現地で感じた教師の『Yes, I can.』の紹介をし、その後生徒に自分たちに出来ることを考えさせる授業展開とした。本時では問題を打破すべく、前向きに活動する人たちがたくさんおり、貧困問題解決に向けて希望があることを伝え、明るく前向きな気持ちを持たせた。

生徒が、自分達にできることを皆で話し合い、自分に実行可能な『Yes, I can.』を発表し、他の生徒から『いいね！シール』をもらって自分の考えに自信を付けることで、自分の『Yes, I can.』を実行しやすくなるような流れを作った。

『自分にできること』という問いが漠然としており、生徒が何を書いて良いのか分からなくなることが懸念されたため、教師の『Yes, I can.』を積極的に伝えた。生徒はそれを参考にし、自分にもこれならできるかもしれないという意識を持ち、自分のアイディアを加えて派生させて考えていたことが、話し合いの様子から見られた。さらに、自分たちにできることを『すぐにできること』『がんばればできること』『大人になったらできること』の3つのカテゴリーに分けることで、『募金をする』という身近なことから『現地に行ってボランティアに参加する』といった大きな活動まで考えさせる事ができた。『すぐできること』では、確実に実行可能な事を考え、また、『大人になったらできること』では、条件を付けることで今の自分にはできないかもしれないという枠をはずし、期待のこもった大きくて自由な発想をさせることができた。

相互評価で生徒になじみのあるロゴを模倣して作った『いいね！シール』を使うことで、生徒が楽しみながら積極的に活動することができた。『ONE SMILE シール』は、『あなたの1つの行動が1つの笑顔を作り出す』ことを表した。授業後も継続的に意識を向けさせること、話題提供することを目的として作成した。



『いいね！シール』



『ONE SMILE シール』

＜生徒の様子＞

前の時間に続き、本時でも生徒たちはパワーポイントを真剣なまなざしで見つめていた。今までよく知らなかったフィリピンのことを知り、日本と異なる日常を過ごす人たちに少なからず驚きや衝撃を受けたようだった。このような問題を自分が知らなかったことに対して危機感を持った生徒もあり、後の感想には、このようなことをもっと多くの人に知ってほしい、自分ももっと知りたい、という気持ちが書かれていた。

生徒にとってフィリピンは遠い国ではあるが、身近な存在の教師が実際に行き、見てきた事を見せ、感じたことを共有することで、生徒にとってもより身近なこととして考える事ができたと思う。話し合いを通して活発に意見交換をしながら、生徒達が独自のアイディアを出そうと思いを巡らせる様子が見られた。他人の『Yes, I can.』を聞き、自分の『Yes, I can.』を考える事で、自分にも何かできるかもしれない、何かしてみようという意識を少しでも持ってもらえたと思う。

<生徒の Yes, I can. >

生徒の『Yes, I can.』は、『募金をする』が多く『フィリピンの事をもっと知る』『フィリピン産のものを買う』『資源を大切に使う』『衣類や遊び道具などを寄付する』『ペットボトルキャップを集める』『いらない服を先生に預けて寄付してもらう』『フィリピンの状況を周りの人にも伝える』などがあがった。『フィリピンについて知ったことを SNS で投稿し、拡散する』というものは高校生らしい表現だった。

<自分たちにできること>

『すぐにできること』

- ・募金をする。
- ・現地の情報を友達にも伝える。
- ・服を集めて現地に送る。
- ・使わなくなった物をボランティア団体に寄付する。
- ・貧困の事について知識を得る。
- ・ペットボトルキャップを集める。
- ・フィリピンについて考える。調べて詳しく知る。

『がんばればできること』

- ・NGO やボランティアに参加する。
- ・駅前で募金活動をする。
- ・手紙やスカイプなどで現地の人と交流する。

『大人になったらできること』

- ・現地に行ってボランティアをする。
- ・日本の技術や知識を教えに行く。
- ・養子を迎える。
- ・会社で提案し、現地での仕事を提供する。
- ・勉強会を開く。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化（生徒感想）

フィリピンに対する知識がゼロの状態からスタートしたが、フィリピンという国のことや貧困の問題に対して真剣に考え、関心を持った生徒が多かった。また、グループ活動をすることで、友人と協力し合いながら積極的に世界の問題について考える様子が見られた。自分にも何かできるかもしれないという意識と、問題解決に向けて動こうとする姿勢を持つことができた。また、フィリピンの国の様子を知ることによって自分の生活を見直し、当たり前で過ごしている毎日を見直すきっかけになったことが、生徒の感想からもわかった。後半で「豊かなフィリピン」の授業を行ったので、最終的な生徒の感想として、フィリピンに行って自然や人々と触れあってみたい、などポジティブな印象を持つ生徒が多かった。

<貧困問題について>

- ・貧困のことについてもっと知り、周りの人たちにも伝えて皆で貧困の人たちのサポートが出来るようにしたい。

- ・フィリピンについて、貧困という問題について興味を持った。
- ・フィリピンの状況をもっと知って、自分たちに出来ることをたくさん見つけ、出来ることを実行して困っている人たちに貢献できれば良いと思った。
- ・友達と、貧困で苦しむ人たちを助けられる方法を考えられたので良かった。
- ・私はフィリピンや他の国について全然知らないという事に気づいた。今後は他の国について知っていき、何ができるか考えて行動しようと思う。
- ・フィリピンについて、今まで考えたことがなかったので、初めて聞いたことや驚いたことが沢山あった。貧困の問題は思っていたより深刻で、それによって麻薬や孤児など様々な事が関連して起きているのだと知った。今、私たちに出来ることは小さなことだけれども、私の Yes、I can を実践したり、大人になったら現地に行ったり、少しでもフィリピンのためになる事が出来たら良いと思った。
- ・意外にも今の自分たちにできることはあり、少しずつでもフィリピンを助けることはできるということがわかった。そして、改めて私たちは恵まれているのだと感じた。また、何かをしてあげる以外にもフィリピンについて調べたり、現状を知ったりするだけでも違うと思う。この現状を沢山の人が知ることによって、一人一人の行動は小さくても、全体の支援は大きくなり、フィリピンの困っている現状が少しでも良くなるといいと思った。
- ・自分に何ができるのか、もっと考えていきたい。今までフィリピンについて考えたこともなかったけど、この授業を通して少しは考えるようになった。今の私の生活が当たり前ではないし、ありがたいと感じた。これからは日々、感謝を忘れず生活をしていきたい。
- ・自分たちの一つ一つの行動が、世界と繋がっている事が分かった。食べ物を捨てないなど自分に出来ることを少しずつ行動に移していきたい。一つ一つの行動が集まることでフィリピンの貧困問題が少しでも良くなる事ができるかもしれないと思う。
- ・今すぐ貧困の地域に何かをすることはできないし、行動するための力もない。ただ、この現状を知ること、そしてたまにでもこのようなことを思い出しながら毎日を過ごすことが大切だと思う。

<フェアトレードについて>

- ・周りの人たちの積極的な協力が無いと解決できないことも多いと思った。
- ・フェアトレードは世界と繋がることができるとし、自国の PR もできるのですばらしいと思う。
- ・パヤタスのお母さん達のように、頑張っている人たちがいるということを今まで知らなかった。これから買い物をする時は、値段だけではなく、誰がどのように作ったのかも気にしながら買い物をしたい。
- ・お金より価値のあるものはあると思った。
- ・パヤタスの商品は、『ソイヤー』の人たちの想いが詰まった素敵な商品だと思った。男の人が組織にいれば、男性向けの商品のアイデアもでるのではないかなと思う。
- ・フェアトレード商品を、お店で探してみたい。
- ・フェアトレード商品の中には、なかなか売っていないような工夫されているものもあって良い。実用的な物を作れば、効率よく売れると思う。

<豊かさについて>

- ・フィリピンにも日本にもそれぞれに豊かさがあり、その違いに驚いた。
- ・日本では便利なことが多いが、もっと愛が必要だと思った。
- ・日本は経済的に豊かだが、楽しく生きることを忘れていているような気がする。

- ・今自分が持っている豊かさを大切にしていきたい。
- ・フィリピンでは GDP は日本より低い、人々は笑顔で暖かく、生き生きしているところが豊かだと思う。
- ・自分もできるだけ笑顔で人に接してみようと思った。
- ・本屋でもらったしおりに、『自由って不自由かも』という一文が書いてあったことを思い出した。日本は技術が進んでいて、なんでも簡単にできる。しかし言い換えれば、それらがなくなったとき、私たちは何もできなくなるのかもしれない。フィリピンの人たちは、限られたもの、限られた技術の中で最大限工夫してポジティブに生活しているように思えた。

<フィリピンについて>

- ・日本にもフィリピンにも沢山の良いところがあった。お互いに触れあう機会が増えたら、互いに高め合ってもっと良いところが増えると思う。
- ・フィリピン人は元気がありそうだった。フィリピン人と話をしたり笑顔に触れたりしてみたい。
- ・自然がきれいで行ってみたいと思った。
- ・厳しい環境の中でも笑顔を絶やさず、楽しそうに生きている。もう少しすれば、豊かな国になるのではないかな。
- ・フィリピンは良い面も良くない面もいろいろあるが、良い国だった。
- ・人の温かさや笑顔を忘れないことなど、フィリピン人に見習いたいところも多かった。
- ・地理の授業で、フィリピンは地熱発電が世界第二位だということも知り、やり方次第でこれから発展していく可能性があると感じた。暖かいコミュニティが地域ごとにあるなど、良い印象を受けた。
- ・これからも時々、このような授業があると良いと思う。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

世界で起きている貧困などの問題に対して、以前よりも知識を増やし、自分の行動について主体的に考える事ができるようになった。他の国で起きていることや、国際協力というものをこれまであまり考えたことがない生徒達だったが、世界で起きている現状に対して問題意識を持ち、自分たちにも何かできるかもしれないという意識を持っていた。

フィリピンの人たちの器用さや、明るくフレンドリーな人柄などから、自分達の生活をよりよくするヒントを得た生徒も多くいた。フィリピンの当たり前を知る事で、自分たちの当たり前を客観的に見直し、よいところを再確認し、改善できそうなことや試してみたいことを積極的に考えるなど、広い視野でより良く生きていこうとする姿勢を見ることができた。

また、地理の授業でフィリピンのことができたことをこの単元の授業と結びつけて考察をしたり、実際にお店でフェアトレード商品を探してみたり、日常の何気ない情報から当たり前で過ごしている自身の生活を省みたりするなど、広い視野で物事を見つめる姿勢を持つようになった生徒も多くいた。

今回の授業では主に貧困の問題について授業をしたが、それ以外にも「自分たちにできること」として、ゴミの分別をすることや、ペットボトルのキャップを集めること、募金活動の具体案を考えること、省エネを心がけることなど、自分以外のことのために自分たちに出来る「何か」を主体的に模索する姿が見られるようになった。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

(授業前)

途上国という言葉は知っていても、それがどのような国なのか、どんな問題が起こっているのか、そして私

たちとどのように繋がっているのかなど、知識はほとんどなかった。フィリピンという国に対しても持っているイメージも様々だった。

(授業後)

フィリピンの貧困や格差などの現状を知り、良いと思えることも、良くないと思えることにも、自分なりの考えを持てるようになった。海外の事を考える機会はあまりなかったが、授業を通して、もっと周りを見て、その中でできる自分の役割を考える事ができた。人生観が変わったと話す生徒もいた。

途上国では大変なこともいろいろあるが、それだけではなくその中で生きている人々にも想いを寄せ、『フィリピンに行ってみたい』『いろいろあるけど良い国である』という感想を持つ生徒もいた。

【8】事後研修

※事後研修で石垣教諭の授業案を元に汎用性の高い授業案の検討を行い、その際に出たこの指導案を実施するに当り工夫できることを記載します

○できることを考える観点として

- ・グループごとに『すぐできること、がんばればできること、大人になったらできること』の三つに分ける。
- ・『相手の自立を目指すこと』にしばって考える。
- ・「ドロップインセンターのアイビーさんに対して」など、支援の相手を明確にする。
- ・『Yes, we can.』を考える。
- ・アクションレベルグラフを作り、具体的なアクションプランを立てる。
- ・募金については、その方法や用途について吟味する。場合によっては時間をとって説明することも必要。

○いいね！シールの活用

- ・相手生徒を勇気づけるため
- ・有効な提案に対して

○授業後指導の方法として

- ・継続的な指導や勇気づけの意味で『Yes, you can.』『Yes, we can.』にアレンジしたシールも活用する

【9】自己評価

1. 苦労した点	・フィリピンなど、他国で起きている現実を自分事として考えることができるようになるには、時間と十分な情報が必要だと感じた。すぐに興味を持った生徒もいたがそうではない生徒もいた。また、授業中は真剣に聞き、一生懸命考えている生徒でも、授業が終わり、時間が経つと次第に意識が薄くなった。継続した指導や日頃からの話題提供の必要性を感じた。 ・教師の想いと生徒の受け取り方にギャップがあった。生徒の実態に即した内容の授業や教材を作ることの大切さを改めて感じた。
2. 改善点	・話題として提供した情報が、生徒にとっては「怖い」「汚い」などマイナスの印象を与えてしまった。話題を提供する順番や、説明の仕方などの工夫が必要である。 ・全9時間を組んだが、要点をまとめて5時間程度に集約したい。

3. 成果が出た点	・『いいね！シール』を貼ってお互いに評価をすることで、評価を視覚化した。普段あまり活発に発言しない生徒でもこのような手段で公平に評価をしあうことができていた。生徒は、自分が『いいね！シール』をもらうために一生懸命に考えたり、友達の『Yes, I can.』にシールを貼るために内容を吟味したりすることに繋がった。本来の目的はシールをもらうことではないが、楽しみながら一生懸命に活動するきっかけになった。 ・グループ活動で友達と意見交換をしながら考えを深める事ができた。他の班と良い意味で競い合っていた。生徒の感想からも、友達の意見も聞くことができよかったとの記述があり、一人ではなく、みんなと取り組む事で、より積極的に取り組むことができていた。 ・授業後も、『ONE SMILE シール』を活用することで話題を増やし、継続した指導に繋げることができた。それ以外にも奉仕活動などにも目を向けさせるきっかけになった。 ・教師の小さな『Yes, I can.』を紹介することで、具体的な国際協力の足がかりを見つけることができた。 ・フェアトレード商品について、実際に自分たちで小物をつくり、そのお金の収支を考える事でフェアトレードの利点や問題点を体感し、考える事ができた。 ・授業の流れとして、初めに貧困などの負の面を紹介し、後半で『豊かなフィリピン』と題してフィリピンの良いところを全面的に伝えることで、最終的に生徒にはフィリピンに対する良い印象を与えることができた。
4. 備考（授業者による自由記述）	他の授業でも言えることだが、生徒の反応を予測しながら資料やパワーポイントを作るのはとても楽しい作業であった。生徒が予想通りの反応を見せる場面もあれば、そうではない場面もあり、自分にとってもたくさんの発見があった。 生徒は『知らない』でいることが多いと改めて感じた。だが、生徒は知ること、確実に何か心境の変化があり、世界や諸問題に対して関心を持ったり、知らなかった事に対する危機感を持ったりしていた。前述の通り、環境問題や紛争、人権など、世界には取り組んでいくべき問題が沢山ある。それらを知ること、多くの人に伝えることが、私たちのできる最も身近な国際協力なのかもしれないと思う。もっとこのような世界で起きている諸問題を学ぶ機会を多く作り、継続していきたいと思う。 映画やテレビとは違い、生徒にとって身近な教師が体験したことや感じたことは、臨場感のある情報として伝えることができ、生徒が遠い国で起きていることに関心を持ち、想いを馳せるきっかけとなった。教師が考えたり行動したりしているのを見て、それに倣うように生徒も自分の『Yes, I can.』を考える姿はとても頼もしいものであった。教師が「今度一緒にフィリピンにボランティアに行こう。」と誘ったら、戸惑いながらも興味を示した生徒が数名いた。いつか実現させたい目標である。かたちは何であれ、こうして世界の諸問題にアプローチし、実際に行動できる可能性を広げることは生徒にとっても世界にとっても意味のあることだと思う。小さな意識や行動が沢山集まり、いつか強大な力になることを願ってやまない。 私たちは無力ではない。Yes, I can!

添付資料：

使用したパワーポイントの一部

“お金がない”だけじゃない
貧困による負の連鎖

in フィリピン



子供の家



ドロップインセンター



この人たちは…?

Kalye
Cafe



ドロップインセンター



I CANの
サポート

Kalye
Cafe

ドロップインセンターの
子ども達がジャストワー
カーとなって働く。

次の世代へ受け継がれる
技術・教育

子供の家



I CANの
サポート

住居・食事・衛生・安
全・教育（精神面含む）



一緒に遊ぶ！

Yes, he can.



一緒に遊ぶ事で、目の前のこの子を、
この瞬間だけでもHappyにすること
ができる！



もう着ない服は家にある！

Yes, I can.

教師という立場から、多くの
生徒に伝えることができる！
知ってもらえることができる！

すごく小さなことでも、
できることはある！！



フェアトレード商品



選べない仕事

過酷な労働

学校に行けない

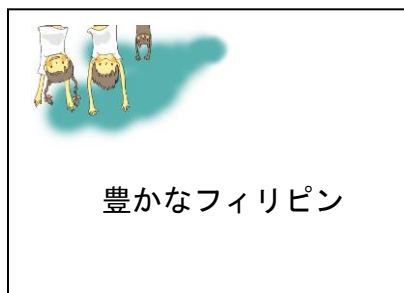
事故

怪我

健康被害

低収入

安定しない収入



参考資料：

ウェブサイト

あいち国際交流協会

地球データマップ

DVD

『バスーラ』

『世界がもし 100 人の村だったら』

本

『フィリピンのことがマンガで 3 時間でわかる本』

『世界と地球の困った現実』

『グローバル教育の実践』